

桜船会 だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 51 号

発行日 2023.12.15

発行者 桜船会

発行責任者 木村允紀



色鉛筆画【赤泊まつりの小獅子舞い】第 5 回趣味の作品展示会より

提供 渡部 勁二氏

いきいきライフ：神社・畑・プールで豊かな人生を

いきいきライフ：“歩いています”

いきいきライフ：2年半ぶりの対面での国際会議

いきいきライフ：チョットそこまで（日帰りバス旅行）

行事報告：第 5 回趣味の作品展示会報告

秋のバス旅行報告：『富士山と地ビール&バイキング』バスの旅

総会報告：第 31 回総会報告

表紙写真：表紙絵について

事務局：会員動向・編集後記

武田 輝明

福山 敬二

柳 正

藤本 孝信

展示班 馬場 景一

編集班 皆川 良司

事務局長 森田 茂

渡部 勁二

事務局・編集班

【神社は祈りと感謝の場】

定年退職後、63歳で國學院大學神道文化学部に入學、古事記や日本書紀等の古典、神道学等々を学び4年間の大学生活を満喫しました。卒業後は、縁あって都内の神田明神に神職としてご奉仕させていただきました。全国80,000余社の神社の中でも比較的大きな神田明神は、宮司(社長)、権宮司(副社長)、禰宜(部長)と職制も組織化され、就業規則も定年制度もあり、65歳が定年でした。67歳での入社は異例でしたが特別に嘱託神職として採用して頂きました。ただただ感謝です。嘱託と言っても、一般の神職と同等の業務内容で、御神前で祝詞を奏上し、大幣(おおぬさ)で参拝者のお祓いをしました。製造業とは全く異なる宗教法人の神社奉仕は新鮮で充実した毎日でした。特に神田明神は「商売繁盛・社運隆昌」のご祈禱に來ます。私も三菱電機照明の首都圏支社長時代には、毎年のように新年参拝に行きました。立場が逆になって、三菱電機の関係会社が参拝に來られた時は「三菱電機関係者だから」ということで私が担当しました。ある時、旧知の販売会社の部長さんが來られた時は、先方がびっくりして「武田さんは実家が神主だったんですか」と言われたりもしました。神田明神に勤務して10年経過し、77歳になったのを機会に退職しました。



●熊野神社

神田明神を退職すると、またまた「ご縁」をいただいて今度は都内葛飾区の熊野神社にご奉仕をさせていただくことになりました。またまた感謝です。

葛飾区立石に鎮座する熊野神社は、平安時代に陰陽師の安倍晴明公によって和歌山県の熊野大神が勧請された神社です。この神社は「暦」にまつわる様々な神事を催行していますが、中でも満月夜詣り・新月夜詣りが有名で毎月の満月・新月の夜は多くの参拝者でにぎわいます。私は正月や七五三、毎月の夜詣り等の多忙時に非常勤で神職奉仕をしています。

今年八十路を迎えましたが、こうして元気に充実した日々を送れているのも神様のご加護があってのことと感謝でいっぱいです。

【畑は自然の恵みと健康づくりの場】

定年退職を機に「晴耕雨読」を実践しようと始めた野菜作りも今年で17年目になりました。遠隔地の畑なので週に2~3回しか行けませんが、畑に行く日は気持ちが高揚して大きな楽しみとなっています。ミニトマト、ズッキーニ、カボチャ、玉ねぎ、里芋、そら豆等々ほぼ1年を通しての野菜作りです。畑に彩りを添えたいと思い季節ごとの花も育てています。

収穫した野菜を自ら調理するのも楽しみの一つです。中でもお薦めなのが「いのちの野菜スープ」です。玉ねぎ・かぼちゃ・キャベツ・にんじんの4種類の野菜各100gを1000ccの水で20分間煮込むだけで調味料は一切使いません。このスープの存在を知ってから3年余毎日欠かさず愛飲しています。風邪



収穫した野菜と季節の花々

薬や胃腸薬が不要となり、免疫力が向上したことを実感しています。私にとって、畑は自然の恵みと健康づくりの場になっています。

【プールは心身リフレッシュの場】

プールとの付き合いは長く、40年ほど前「椎間板ヘルニア」の手術を受けた際、医師から「再発防止には運動が第一、どんな運動でも良いので継続しなさい」と言われたのがきっかけです。腰に負担をかけない運動が良いだろうと考えて「水泳」を選択しました。海に近い横須賀育ちなので海で泳ぐことは慣れていましたがプールでの水泳は全く勝手が違いました。初めは50mをやっと泳ぐ状態でしたが「継続は力なり」でいつか2kmを平気で泳ぐようになりました。現在は、週に2~3回で1回に1.5~2km泳いでいます。水泳の後の清々しさは格別です。正に水泳は健康維持と心身のリフレッシュ効果大です。

これからも神様への感謝の心を大切に、健康で元気な日々を楽しく送っていきたくと念じています。

私は2000年3月に先端総研で定年退職を迎えました。単身生活は5年でした。

赴任先から我が家に戻ってきて、これから先何をするかは後日ゆっくり考えることにして、まずは体力が落ちないように「体を動かす」ことから始めました。



現役当時は通勤などで常に体を動かしていますが、退職すると当然動かす機会が減ってしまいます。その分筋力の低下が進みやすくなります。そこで対策として①家事を積極的に行う②1万歩のウォーキングの実施などの目標を定め実行することにしました。

①の家事ですが、当時妻は勤めていたので午前中の仕事すなわち洗濯・掃除・水洗い・買物などを一手に引受け、妻が辞める2年余りの間頑張りました。中でも洗濯は5年間の単身生活で身につけてしまったのでしょ。現在も私の日課として続いています。

②のウォーキングは運動不足解消の手軽な手段ですが、ただ歩くだけでは単調さに飽きてしまい三日坊主になりがちです。そこで継続するために目標を立てることにしました。いろいろ考えた末、JR時刻表に駅間の営業距離が記載されているのにヒントを得て「JR時刻表による旅」と題して、まず東海道本線東京駅から大阪駅を目指すことにしました。途中挫折しないための対策として歩行数・歩行距離・到着駅名などを記録することとしました。そして東京駅をスタートして4か月、挫折することなく無事に大阪駅に到着550キロの旅でした。

日々歩くことに自信を得た私は以降、JR本線・支線を行ったり来たりして終止符を打ったのは下関駅でした。理由は「地球1周」に後7千キロに近づいてきたからです。そこで目標を「地球1周」に変更して、7年5ヵ月に及ぶ「JR時刻表による旅」に幕を下ろしました。

私のウォーキング歴は23年になります。今年の4月末現在総歩行距離は8万8千キロで、新たな目標は「10万キロ・地球2周半達成」です。しかし年齢を考えれば達成できるかは不透明ですが一歩一歩目標に向かって頑張っています。

ここで私が数年前から好んで歩いている花を見ながらのコースを紹介させていただきます。

私の最寄り駅であるJR相模線香川駅から西へ200m

歩きますと小出川に出ます。そこの「聖天橋」を渡り左折して川沿いを下流方向に700m歩きますと「大曲橋」を経て「さがみ縦貫道（圏央道）」の高架を抜けると、次の「萩園橋」までの500m区間は60本ほどの河津桜と菜の花が迎えてくれます。地元の「花とともにくらす会」の人達によって大事に育てられています。早春の見頃の時期には川沿いがピンクの桜並木へと変わり、黄色の菜の花との共演を楽しむことができます。更にここからは丹沢山系・大山・富士山・箱根の山々が一望できパノラマを満喫できる絶景穴場スポットです。また毎年「小出川桜まつり」が開催されますが、コロナ禍で3年間は中止でした。



小出川の河津桜と菜の花

次に「萩園橋」から「浜之郷橋」の500m区間は約55本のソメイヨシノが植えられています。薄いピンク色の花が咲き誇る満開時は見事です。また珍しい木も植樹され「小出川に親しむ会」の人達によって「花の小道」と名付けられています。

続いて「浜之郷橋」から「新鶴嶺橋」までの450m区間は紅梅・白梅の並木道です。ここは歩行者専用道路沿いに植えられていて、のんびりと川沿いを散策することが出来、春の訪れを感じられる風景です。

以上のように小出川に架かる「大曲橋」から「新鶴嶺橋」までの1.5kmの川沿いは、春の美しい花が迎えてくれる絶好のコースです。私は2月から4月にかけてそれぞれの花のつぼみが徐々に膨らみ、色づき始め、そして開花するまでの過程に興味があり、晴れた日には必ずこのコースを歩きます。

私はこれまで大きな病気もせず元気に過ごしてきました。これから先、要介護を遠ざけ自立した老後を過ごすためにもウォーキングが最高の健康法だと信じ、明日も元気に歩きます。

私は2019年の3月末に(一般社団法人)日本照明工業会(以下、工業会)を退職してからも国際標準化活動に関与させていただいている。具体的には電気関係の国際的な標準化団体であるIEC(国際電気標準会議)の傘下に設けられた光源を取り扱う分科委員会(SC 34A)に属する作業グループ(SC 34A/WG3)のエキスパートとして参画している。ここでは照明用有機EL(OLED)に関するIEC規格の新規提案、及び提案された文書の検討を行っている。また、SC 34A/WG3のミラー委員会として工業会に設置されているOLED技術分科会に委員として参加している。

日本はOLEDの技術開発において国際的に主導権を握っている。それとともに国際標準化について経済産業省の委託事業として国から支援を得たこともあり、IECの場に於いても主要な役割を担っている。

OLEDのIEC規格を議論するSC 34A/WG3の会議はコロナ禍前までは年に3回のペースで世界各地に於いて開催されてきた。しかしながら、コロナの世界的な感染が広まってからは対面での会議は2020年2月のニュージーランドの首都であるウェリントンでの開催を最後にオンライン会議となった。IECの会議は英語が使用されるので、相手の表情の変化やその場の雰囲気を読み取ることが重要となる。しかしながら、オンラインではそのようなことを行う事が困難であるので対面での再開が待ち望まれていた。コロナの世界的な流行が少し収まったので2022年10月のサンフランシスコでのIEC大会は、ようやく対面での開催となった。私が所属しているSC 34A/WG3もこのIEC大会に参加することになった。IEC大会は、毎年開催場所を変えながら、ほぼすべての技術委員会(TC)が参加して行われている。昨年のIECサンフランシスコ大会には、およそ90カ国から2,000名以上の参加者が集まった。

私が出席したSC 34A/WG3会議は10月30日(日)に開催された。アメリカでも日曜日に会議を開催することがあることを知って少し驚いた。会議の議題のほとんどは自由に形状を変えることができるフレキシブルOLEDに関する日本からの提案であった。議長と一緒に仕事をしている山形大学の教授であることもあり、非常にスムーズに進行し、日本からの提案はすべて受け入れられた。また、久しぶりの対面での会議であったので、旧知のメンバーとの再会を

お互いに喜び合った。

会議の前日は特に予定が無かったので、時差ボケ解消も兼ねてサンフランシスコ市内を見て回った。



【遠くにゴールデンゲートブリッジ】

それが見える海辺の丘まで歩いて行った。途中見かけたマスク姿は日本人も含めてアジア系の人達だけであり、現地の人はずっとと言っていいほどノーマスクであった。会議の場面でもマスクをしていたのはアジア系の人達だけであった。

もう一つ、坂の多いサンフランシスコで有名なのはケーブルカーである。実際どのように街の中を動かしているか興味があったのでケーブル博物館に見学に行こうと思ったが、あいにく休館日と重なっていたために実現できなかった。後で調べたところによると、道路下に設置された一定の速度で動くケーブルを掴むことによって動かし、それを離して減速し、ブレーキをかけることによって停止させているとのことであった。

今回のサンフランシスコでの会議は年に一度のIEC大会であったので、オープニングセレモニーやレセプションなどの行事も催された。



【サンフランシスコ市街にて】

私はSC 34A/WG3会議の翌日に行われたレセプションにも参加した。さすがに世界一のチャイナタウンを擁するサンフランシスコだけあって、提供された食事は中華の飲茶であった。レセプションではコロナ禍とは思えないほど密になって各国メンバーが飲食をしながら談笑していた。やはり、対面での開催は会議以外でもこのような場で多くの参加メンバーが交流できる大きなメリットがある。

今年の照明関係のIEC技術委員会(IEC/TC 34)の国際会議は6月に東京で開催された。今後とも引き続き対面で開催されることを切に願っている。



私の住む集合住宅は鎌倉市の北部をかすめて流れる「かしおがわ」沿いにある江ノ電路線バスの便数こそ増えましたが便利とは言い難く、日常の買い物には江ノ電バスで「大船」に出るか「藤沢」に出るかです。

江ノ電バスの大船行きに乗っても「富士見町」というバス停があり藤沢行きに乗っても「富士見町」というバス停があります。

その昔は富士山がよく見えた場所なので名付けられたと聞いたことがあります。アチコチにある「富士見町」も今では名ばかりで富士山を見ることのできる「富士見町」は殆どないとも聞きます。

しかし、富士山はあちらこちらから見えるもので季節限定ですが蛇行する「かしおがわ」の向こうにドーンと大きく見える場所があります。

病院帰りに歩く「湘南モノレール」の軌道の下、開けた工場跡地の奥に見えることがあり、散歩の途中に夕暮れの空を背景にして「嘘〜っ」と声が出るほど大きな紫色のシルエットを見せる場所もあります。

お正月限定ですが、集合住宅の外階段から望遠レンズで撮る富士山は青い空を背に雪をかぶり長く裾をのばしています。

上のように、私の知る富士山は子どもが絵に描く三角に白い帽子をかぶった、分かりやすい「遠くに見る姿」です。

富士山の標高は「サン・ナナ・ナナ・ロク」と覚えています。浮世絵（葛飾北斎）に描かれている富士山のテッペンはやたら尖っています。

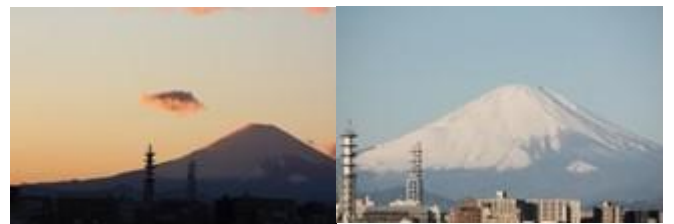
本当のところ、テッペンの角度は何度ぐらいだろうかという疑問を持ったこともありません。うろ覚えですが、ハイティーンの頃に読んだ太宰治の「富獄百景」には、135度ぐらいのことが記されていたと思いますがそれ以上の知識はありません。

当然ですが、私にとっての富士山は地質学的に理解したり、日本の近世以降の画家たちの作品から「なにごと」かを知ることでもありません。

教養もへちまもありませんが「美しい」「ただ美しく」「ひたすら美しい」姿を時々見せてくれるだけで十分なもののひとつです。



山中湖からの富士山（今回のバス旅行にて）



自宅付近からの富士山

で、「桜船会・秋のバス旅行ってどこに行くのよ」と聞かれて「チョットそこまで、富士山を見ながらお昼を食べに・・・」でした。

途中、山中湖から見た富士山は、いつも遠目に見る慣れ親しんだ姿ではなく何かが不足しているという感じでした。富士山と言えば「雪の帽子」ですが、夏の終わりに「雪の帽子」を望むのはチョット無理ですね。くすんだ暗緑色の富士山は「美しい」とか「春麗」というよりも「穏やか」な印象で、これはこれで新鮮でした。

「不足」と言えば、いつもバスの後部座席を占拠して賑やかに「バス旅行」を盛り上げてくれていたオジサンたちの姿が見えませんでした。

こちらは「寂しい」で、ワイワイガヤガヤと元気なおジサンたちにお会いしたいものです。

病院通いをする「からだ」は「不足」だらけですが来年も参加したいと思っていますところでは。

■ 作品展示会の概要

6月3日の総会時、4年ぶりに第5回趣味の作品展示会を開催しました。今回の総会は出席者数が少なくなり、それに伴って出展者数も少なく5名の方に出席していただきました。

当日ご覧になれなかった方も多かったので、今回の作品をここでご紹介いたします。

■ 展示会結果

この展示会は、ますます多種多様な展示となり、会員の皆様から喜んでいただき、この展示会を楽しみにされる方が増えてきました。

次回はこれまでの方々に加え、未だ出展されていない方の出展をお待ちしておりますので、宜しくお願いいたします。

■ 出展者名・展示品名（敬称略、順不同）

☆渡辺安次郎・水彩画



「夕景の街並み」



「夏の装い」

☆萩原大義・写真



「富士見高原のゆり里」 「加茂菖蒲園」

☆渡部勁二・色鉛筆画



「赤泊まつりの小獅子舞い」



「大野亀の佐渡ユリ」

☆尾浦孝夫

世に残る「シンボルマーク制作」



☆小泉登夫・陶芸

「お皿」「器」他



- 1) 実施内容：『富士山と地ビール&バイキング』
日帰りバスの旅
- 2) 実施日：2023年9月28日（木）
- 3) 会費：6,000円 会員、ご家族とも
- 4) 参加者：22名（内ご家族4名）
- 5) コース：三菱電機照明（MLF）8:15 出発～山中湖～御殿場高原ビール・麦畑で昼食～箱根神社～MLF17:20 帰着
- 6) 昼食：地ビール飲み放題と和洋中バイキング
- 7) 天候：暑いくらいの晴天
- 8) バス旅行報告：

参加者の集合が早く、労組からの差し入れのお茶とお菓子を積み込んで予定通り MLF を出発しました。大きな渋滞もなく中井 PA で休憩して山中湖に向かいました。

いい天気の中湖からは、傘雲を載せた大きな富士山がくっきりはっきり見えました。その富士山と山中湖をバックに集合写真を撮りました。その後旭丘棧橋から遊覧船「白鳥の湖号」で25分間ゆっくり周遊して湖上からの富士山を堪能しました。乗船している観光客は他にいなくて貸し切り状態でした。

山中湖を後に昼食に向かいます。御殿場高原ビール・麦畑では、各テーブル6名で4テーブルに分かれて座り店員の説明を聞いた後、早速90分の昼食スタートです。6種類の地ビール・2種類のベビーワインの飲み放題、和洋中のバイキング食べ放題の昼食です。地ビールもセルフサービスです。自分でジョッキを冷蔵庫から取り出し自動サーバーで入れます。6種の地ビールは味わいが異なり、全て美味しくたっぷりいただきました。ワインはかなり甘めでした。料理はサラダ、そば・うどん、寿司、ステーキからカレー、焼きそば、ケーキ、アイスクリーム、フルーツ等50アイテムもありとても全ては味わえませんでした。麦畑は比較的空いていてゆっくりとお腹いっぱいいただきました。皆さんほろ酔いでした。

昼食後は箱根神社です。ここは海外からの観光客が目立ち込み合っていました。三々五々参拝して、湖上の鳥居を見に行ったところ鳥居をバックにした写真撮影待ちの行列が30名ほど並んでいました。

箱根神社を後にして帰路につき、事故もなく予定通り MLF に到着し解散しました。美味しく・楽しく・ゆっくりできた一日でした。



山中湖で富士山をバックに



箱根神社本殿前にて



御殿場高原ビール・麦畑での地ビールとバイキング



バスの座席から

コロナ感染拡大の影響を受け、2020 年から 2022 年迄の 3 年間定時総会を開催出来ず書面表決による総会を行ってきましたが、本年度はコロナの状況が収まりつつあり 4 年ぶりに第 31 回総会を 6 月 3 日に情報総研大会議室において開催しました。

総会出席予定者は当初 61 名でしたが、台風 2 号や活発化した梅雨前線の影響で交通の便が乱れ、当日の出席者は 49 名での開催になりました。森田事務局長の開会の辞に始まり昨年度の物故者 2 名の方々に対する黙祷を捧げた後、木村会長による開会挨拶、続いてご来賓の方々のご紹介を行い、ご祝辞を頂きました。ご来賓の方々には、以下の通りです。

- ・ 情報技術総合研究所 総務部 部長 加藤 新一郎 様
業務部 部長 小玉 亮 様
総務部 人事課 課長 角田 俊行 様
- ・ 統合デザイン研究所 D戦略部 部長 東田 智輝 様
- ・ 労働組合東部研究所支部 執行委員長 堀 敏典 様
書記長 川崎 健吾 様

議案審議に先立ち、総会出席者数 49 名、委任状提出者数 82 名、合計 131 名で会員総数 187 名の過半数に達している為、会則第 8 条 1 項により本日の総会が成立していることが報告されました。

引き続き次の議案について担当役員より報告及び提案がなされ、出席会員の賛成多数により、何れも承認されました。

- ・ 第 1 号議案 2022 年度活動報告 富山副会長
- ・ 第 2 号議案 2022 年度会計報告 伊藤会計
2022 年度年度会計監査報告 丸屋会計監査
- ・ 第 3 号議案 2023 年度活動計画 富山副会長
- ・ 第 4 号議案 2023 年度予算 伊藤会計

続いて、2023 年度役員について川崎労組支部書記長様より次の通り推薦があり、出席会員の賛成多数により承認されました。

- ・ 会長 木村 允紀 (再任)
- ・ 副会長 富山 勝己 (再任)
- ・ 事務局長 森田 茂 (再任)
- ・ 会計 伊藤 善貞 (再任)
- ・ 幹事 馬場 景一 (再任)
- ・ 幹事 皆川 良司 (再任)
- ・ 顧問 萩原 大義 (再任)
- ・ 会計監査 丸屋 完 (再任)

以上で総会を終了しました。終了後は同じ会場でお弁当の昼食会を実施し、その後散会しました。



表紙絵は佐渡の伝統芸能の一つである小獅子舞いを描いたものです。4 月になると佐渡の各地で春まつりが始まります。出し物は村によって大獅子であったり、鬼太鼓であったりします。村の人は稲田の準備とともにまつりで忙しくなり、子供たちには心躍る時です。村の親戚や隣村から招待の声が届き、親戚の大人や子供が集う賑やかさと共に今年はどうのようなご馳走が出るか楽しみにします。

さて、絵の小獅子舞いは村の青年たちが雄獅子(角かざりの頭)、雌獅子(刀かざりの頭)及び子獅子(頭かざりなし)の三頭の衣装で登場し、行方が分からなくなっていた子獅子が見つかり、親獅子が大喜びで、子獅子の周りを笛・太鼓・歌に合わせて踊るものです。

獅子は村の神社の前で踊った後、家々を回って来ます。子供たちは家の縁側に座って今か今かと待っていたものです。目の前で見る獅子の踊りは躍動感あふれ、わくわくしましたが、絵でこれを表現するのは難しく、静的になってしまいました。しかし、絵を見ると、子供の頃が懐かしく蘇ってきます。

事務局

会員動向・編集後記

■ 会員動向 (敬称略) (2023.4.1~2023.9.30)

- ・ 会員数：186 (前回ご報告から 7 名減員)
- ・ 入会者：2 名 山田 雅浩 玉木 康之
- ・ 退会者：7 名 篠崎 幸雄 近藤 信幸
竹内 秀義 柏木 博 小山田 熙光
新明 政信 岡本 武
- ・ 物故会員：2 名
山崎 清司 (2022 年 8 月 22 日逝去)
塚本 英雄 (2023 年 8 月 8 日逝去)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■ 編集後記

今年度から編集班が 1 名になりましたので行き届かないことがありますもご容赦お願いいたします。

行事が実施されますので、対面で寄稿依頼をさせていただきます。是非受託をお願いいたします。

■ 桜船会 URL <http://www.ousenkai2013.com/>

編集責任者：皆川良司

印刷所：(株) さんこうどう

